



# 乳鉢・乳棒

にゅうばち・にゅうぼう



## 概要

乳鉢（にゅうばち）と乳棒（にゅうぼう）は日本画制作の際に、水干絵具や胡粉をすりつぶすために用いる用具です。また礬水液（どうさえき）を作る際に、粒状の生明礬（きみょうばん）をすりつぶすのにも用います。

乳鉢と乳棒は白い陶磁製で、鉢の内側と棒の先がすりやすいようにザラザラになっています。乳鉢のサイズは直径9cm、12cm、15cm等があり、対の乳棒もそれらに合った大きさがあります。

水干絵具や胡粉は、市販されている状態では板状のかたまりになっているものが多く、そのままの状態では膠液（にかわえき）を加えると均等に混ざりにくいので、溶く前に乳鉢に入れ、乳棒でよくすりつぶして絵具の粒子を細かくします。この作業を「空ずり（からずり）」といい、ザラつきがなくなり、乳鉢の内壁にくっつくようになるまですり、片栗粉のようにきめ細かい状態にします。空ずりした水干絵具は絵皿に移して膠液を入れて練り、十分練った後、水を加えて溶きます。多量の水干絵具を溶く場合は、空ずりした水干絵具を乳鉢に入れたまま溶くこともあります。

取り扱いの注意として、使用後は水でよく洗いましょう。汚れが落ちにくい場合は、食器用洗剤やスポンジを使用したり、熱湯に浸け置きしてから洗います。また、乳鉢の内側は水干絵具で色が染まることがあるので、胡粉とその他の色というように、2つの乳鉢を使い分けると色移りを防ぐことができます。

乳鉢と乳棒はセットで販売されており、日本画の用具や画材を取り扱う画材店で購入できます。

あ  
か  
さ  
た  
な  
は  
ま  
や  
ら  
わ  
A  
B  
C  
D  
E  
F  
G  
H  
I  
J  
K  
L  
M  
N  
O  
P  
Q  
R  
S  
T  
U  
V  
W  
X  
Y  
Z  
数字

## 空すり



手順 1. 水干絵具を乳鉢に入れて、乳棒ですります。



手順 2. ザラつきがなくなるまで、よくすりつぶします。